

## 放下著

「ほうげじゃく」

彦根工業高等学校

彦根工業高校の部旗には「放下著」という文字が染められています。

この言葉は『従容録』という書物に出てくる禅語です。「放下」が投げ捨てるという意味で「著」は命令の意味をあらわす助辞ですので「投げ捨ててしまえ」という意味です。

唐代の有名な禅僧趙州和尚に善信という弟子が「私はお陰様で、迷いも悟りも捨て去り、本当の無一物になることができました。この上はどのようにすればよいのでしょうか」と尋ねました。これに対して趙州は「放下著」つまり「捨ててしまえ」と答えたのです。

善信は不思議に思って「既に無一物となっています。この上何を捨てるのですか」と問いますと、和尚は「それならばどっさりと担いでいくことだ」と言いました。

趙州は、善信に「何もかも捨てた」という気持ちそのものをも捨ててしまわなければ本当に捨ててしまったことにはならないと諭したのです。

いかにも禅問答らしく難しいやりとりですが、私たちが学ぶ剣道に例えてみましょう。「試合に勝とう」ということを目標に努力している人が、あるとき「勝負にこだわっているから上手くならない」と気がつきました。「それはそれでいいことだが、こだわるまいと考えている以上はこだわっているのだぞ」と趙州は言っているのです。ではどうするとよいのでしょうか。「それは、何もかも忘れ去って（放下して）ただひたすらに剣道に打ち込んでいくほかはないわい」と趙州和尚は教えているように思います。

この部旗は、杉浦知康先生が、彦根工業に赴任されたときに、滋賀県高体連剣道専門部の大先輩石田承玉先生に揮毫を依頼されて作られたと聞いています。当時杉浦先生は国体選手としても稽古をされていたので、生徒への教訓と同時にご自身をも励ます意味でこの言葉を大切にされていたものと思います。

今も彦根工業の生徒諸君はこの言葉を大事にして稽古をしていると思います。